

## 国際文化観光・スポーツ常任委員会委員会調査報告書

令和5年9月5日(火)に、厚木市及び県立山岳スポーツセンターにおいて、「観光に関する事項について」及び「スポーツに関する事項について」調査したところ、その概要は別紙のとおりでした。

神奈川県議会議長 加藤元弥様

国際文化観光・スポーツ常任委員会委員長 石川裕憲

## 1 調査の概要

- (1) 調査箇所 厚木市及び県立山岳スポーツセンター
- (2) 出席委員 石川裕憲委員長、石川巧副委員長、  
難波達哉、田村ゆうすけ、細谷政幸、嶋村ただし、杉本透、栄居学、  
吉川さとし、市川よし子、西村くにこ、阿部将太郎、浦道健一の  
各委員
- (3) 随行者 和田主査（議会局議事課）、内田副主幹（国際文化観光局総務室）、  
本島副主幹（スポーツ局総務室）
- (4) 調査日 令和5年9月5日（火）
- (5) 行程 県庁 → 厚木市 → 県立山岳スポーツセンター → 県庁

## 2 厚木市

### (1) 調査目的

本県では、新たな国際観光地創出のため、観光の核づくり地域として認定した地域において、地域が主体となった先導的な取組を支援し、観光の魅力づくりを進めている。

そこで、認定地域である大山地域内の厚木市七沢地区における厚木市の観光振興の取組を調査することで、当常任委員会の審査の参考に資するものとする。

### (2) 厚木市及び当局出席者

厚木市産業振興部長、同市産業振興部観光振興課長、香川智佳子国際文化観光局長、千葉剛観光振興担当部長、重田健太郎観光課長、笹野千尋観光プロモーション担当課長ほか

### (3) 委員長挨拶

### (4) 国際文化観光局長挨拶

### (5) 厚木市産業振興部長挨拶

### (6) 概要説明

以下の内容等について、説明があった。

ア 七沢地区の魅力について

イ 観光振興策（課題アプローチ）について

ウ 具体施策について

- (ア) 七沢不動尻の環境整備
- (イ) キャンプ場等の誘致
- (ウ) あつぎ温泉郷のPR
- (エ) 広域観光の推進事業
- (オ) 観光用途での開発審査会提案基準の追加

(7) 質疑応答

質 疑 説明いただいた具体施策は、どのくらい前から本格的に始めているのか。

応 答 不動尻の環境整備における案内板の設置、林道の整備、トイレの設置については、昨年度から本格的に着工している。

キャンプ場の誘致については、今年度から実施している。

あつぎ温泉郷については、昨年度から始め、今年度から本格的に実施している。実際に今後、人が多く集まるターミナル駅や近隣のショッピングモール等に我々が行き、例えばそこに足湯を置いたりしてPRをさせていただければと思っている。また、実現できるか分からないが、ロマンスカーの中に足湯を持ち込んでPRを行えば、非常に効果が高まるのではないかと考えている。

広域のサイクリングコースの提案は令和3年度に実施したが、厚木市では自転車活用促進法ができた約10年前からサイクリングコースの提案や自転車ラックを置いて、サイクリスト歓迎をアピールするといった事業展開をしていた。

観光用途での開発審査会の提案基準の追加については、昨年度に行った。

質 疑 コロナ後の観光の回復状況は、どのような感じが教えていただきたい。

応 答 駅近くのホテル業界は、ほぼほぼコロナ前に戻ったと聞いている。ただ、旅館については、つい最近になってやっとお客さんが戻ってきたという印象であり、市内でも回復の速度の違いを感じている。

インバウンドについては、中国人のツアー旅行が解禁されるという情報もあるが、すぐには戻るものじゃないというふうに思っている。

質 疑 主にどのような方を対象に、観光施策のプロモーションなどを行

っていきたいと考えているのか。

**応 答** 観光振興は、地域の外から人、お金などが流入して初めて成り立つものなので、市の外からお客様に来ていただく、そういうターゲットを想定して進めている。

やはり神奈川県内の小田急線沿線からお客さんが多く来られるというデータがあるので、まず第一は、そういうところにアプローチをして、誘客の促進を図っている。

また、厚木はアウトドアやアクティビティでの活用も非常に有効なところであると思う。アウトドア愛好家をターゲットとして、横浜のアウトドアショップに厚木のハイキングマップを置かせていただくといった、ターゲットの生活動線上に情報を落とすという方向で今、事業を展開している。

**質 疑** 七沢には、温泉と神奈川県総合リハビリテーションセンターが、バスですぐ行ける距離にある。温泉と健康施策を結びつけやすい地域であること、レスパイト入院時に七沢が利用者の方の選択肢の一つになればいいなと思ったことから伺いたい。旅館のバリアフリーやユニバーサル化の取組はどのくらい進んでいるのか。

**応 答** 建物が古く家族経営を基盤とする旅館では、きめ細やかなバリアフリーの改修まで対応できない場合が推察される。その反面、バリアフリーを含め、細分化する顧客ニーズに沿った部屋づくりを進めている旅館もある。

リハビリテーションセンターが非常に近くにあり、健康と温泉、レスパイトなどへの活用はいいアイデアだと思うので、今後、考えていければと思っている。

## (8) 黄金井酒造及び空と大地 七沢温泉 食の市の視察



## (9) 調査結果

厚木市では七沢地区において、良質な温泉と8軒の湯宿、緑深い豊かな自然、酒蔵をはじめとした多彩な飲食、歴史文化を背景とした街の奥ゆきといった魅力を観光資源と捉え、それらを磨き上げ、強みを活かすという施策を展開していた。

ミツマタの群生地や滝など豊富な資源がある七沢不動尻では、案内看板やベンチの設置といった受入れ環境整備を進めており、整備が終わってから誘客のためのプロモーションを展開していくこと、また、八つある滝のうち五つが無名滝であり、今後、磨き上げを行い、情報発信することを考えていた。

厚木市の面積の3分の1は森林であるが、厚木市内にはキャンプ場がなく、また、相模原市や秦野市といった近隣市のキャンプ場は、週末を中心に予約で混雑しているため、市として機会損失につながっているのではないかという課題意識があった。そこで、今年度からキャンプ場等誘致補助金を創設し、七沢地区でキャンプ場や足湯、露天風呂といった時間消費型施設の運営を行おうとする事業者に対して補助を行っていた。

また、厚木市には、飯山温泉郷と東丹沢七沢温泉郷の二つの温泉郷があるにもかかわらず、市外ではそれらの温泉郷と厚木市が結びつかないという課題があった。そこで、今までは二つの名称を使い、それぞれPRを行っていたが、昨年度、厚木市観光協会が主体となり、「あつぎ温泉郷」という二つを包含する名称を設定し、市外へPRを行っていた。

広域連携については、厚木市長が「県央姉妹都市構想」を掲げており、観光の分野でも厚木市・秦野市・伊勢原市・愛川町・清川村の5市町村による観光振興を推進していた。例えば、5市町村の観光資源を巡る観光ツアーの開催や、県の核づくり補助金を活用した5市町村を巡るサイクリングコースの提案を行い、この取組でも七沢地区の自然や飲食といった観光資源を活用していた。

また、時間消費型観光施設の集積促進を行うため、本年8月1日から市街化調整区域における既存建物の用途変更の判断基準に、観光振興に活用するための用途変更を追加した。この制度は全国的に見ても珍しく、県内では厚木市のみが行っており、七沢地区にある「青空と大地 七沢温泉 食の市」は、この制度を活用した施設の第1号であり、飲食のみだった用途に物販や観光案内の機能を加えた用途変更を行ったことで開業した施設であった。

これら厚木市の七沢地区における観光振興に関する取組は、今後、当常任委員会で観光の核づくりについて審査をする上で、参考になった。

### 3 県立山岳スポーツセンター

#### (1) 調査目的

本県では、スポーツ推進計画に基づき、県民の多様なスポーツへのニーズに対応するため、県立スポーツ施設の整備・充実等、スポーツ活動を拓げる環境づくりを推進している。

そこで、県立山岳スポーツセンターを調査することにより、当常任委員会の審査の参考に資する。

#### (2) 当局出席者

三枝茂樹スポーツ局長、矢島裕久スポーツ課長ほか

#### (3) 委員長挨拶

#### (4) スポーツ局長挨拶

#### (5) 概要説明

以下の内容等について、説明があった。

ア 設置目的について

イ 沿革について

ウ 指定管理者について

エ 施設概要について

(ア) 管理棟について

(イ) 研修棟について

(ウ) 宿泊棟について

(エ) クライミングウォールについて

オ 利用時間について

カ 利用者数（実績）について

#### (6) 質疑応答

**質 疑** クライミングについて、県内での愛好者はどのくらいいるのか。

**応 答** 統計としては把握していないが、神奈川県内に民間のクライミングジムが約45か所あることを考えると、数百人以上のレベルの愛好家がいるのではないかと思う。

## (7) 施設の視察



## (8) 調査結果

県立山岳スポーツセンターは、県民に登山に関する知識の習得、技能の向上及びレクリエーションの場を提供し、もって県民スポーツの振興に寄与することを目的として設置されており、クライミング教室、山岳遭難対策を含む指導者の養成、登山に関する研修会等を実施しているとのことであった。

県立山岳スポーツセンターの施設としては、管理棟、シャワー室と研修・トレーニング室がある研修棟、宿泊室と食堂がある宿泊棟があるほか、リードウォール、スピードウォール、トラバースウォールといったクライミングウォールが設置されていた。また、そのすぐ隣には、令和2年にオープンした秦野市立はだの丹沢クライミングパークが立地していた。

なお、クライミングウォールについては、平成9年にリードウォールを、令和2年にはスピードウォールを設置したとのことであった。

また、秦野市立はだの丹沢クライミングパークには、ボルダリングウォールが設置されているため、同クライミングパークと山岳スポーツセンターの2施設で、スポーツクライミング競技3種目の設備が整っており、令和4年には、パラクライミングジャパンシリーズ日本選手権大会の会場として利用されたとのことであった。

また、山岳スポーツセンターの宿泊棟は、クライミングや登山の合宿だけではなく、秦野戸川公園内のグラウンドを使う野球やサッカーの合宿、幼稚園の宿泊体験でも利用されているとのことだった。

利用者数については、平成30年から令和元年までは年間約11,000人だったが、令和2年から令和3年は新型コロナウイルスの感染拡大の影響で利用を制限していたこともあり、年間約4,000人となったが、利用制限が緩和されるとともに、

上記の日本選手権大会も開催された令和4年は年間約9,000人にまで回復したと  
のことであった。

これら県立山岳スポーツセンターを調査することで、今後、当常任委員会でス  
ポーツを促進するための環境整備等についての審査をする上で、参考に資するも  
のとなった。